

(様式第4号)

上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

| | |
|-------------|---|
| 1 会議名 | 上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 |
| 2 日時 | 令和6年1月19日(金) 午後2時00分から午後3時30分まで |
| 3 会場 | 市役所本庁舎 5階 大会議室 |
| 4 出席者 | 上田地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員18名 上田地域振興局企画振興課長、上田地域広域連合事務局企画課長(オブザーバー) |
| 5 事務局出席者 | 上田市政策企画部長、上田市政策企画課、上田市連携事業担当課、東御市企画振興課、青木村総務企画課、長和町企画財政課、坂城町企画政策課、立科町企画課、嬭恋村未来創造課 |
| 6 公開・非公開 | <u>公開</u> ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 3人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和6年1月29日 |

協 議 事 項 等

| |
|---|
| 1 開 会 (上田市政策企画課長) |
| 2 委嘱状交付 |
| 3 あいさつ (上田市長) |
| 4 委員自己紹介 |
| 5 会長・副会長選出 ・会長に小山晃委員、副会長に東城正彦委員を選出 |
| 6 議 事 |
| (1) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの変更(案)について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・質疑等なし |
| (2) 第3次上田地域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について ・資料に沿い、事務局から概要を説明 ・以降、協議 |
| (委 員) 取組内容No.25「若者の域内移住・定住を支援する体制・制度の充実」において取り組んでいる企業ガイドブック上田の作成・配布について、最近の学生や若い人の目に留まるような内容となるよう検討していただきたい。また、就職情報の入手方法はインターネットが主流であるため、各自治体でも取組を進めているDXの要素も盛り込むなどの工夫を図り、この地域の働き手確保につなげていただきたい。 |
| (事務局) 「企業ガイドブック上田」は、全国の大学に送付しているほか、希望する高校生にも配布をしている。また、冊子での配布に加え、ホームページ上、電子ブックでも閲覧できるよう取り組んでいる。多くの方に見ていただけるよう、送付希望の方に、先着順で上田市の特産品を同封するなどのPR活動にも取り組んでいる。 就職説明会や就職面接会へ多くの方に参加いただけるよう、参加者の片道分の交通費負担や、学生だけではなく35歳未満の若年者も対象に加える等の取組も進めてきており、今年度は昨年度より多くの方に参加をいただいている。 企業向けには、企業の魅力を高め、学生に選んでもらえるよう、キャリアコンサルタントを活用したセミナーの実施のほか、女性採用強化や就活サイト活用に関するセミナー等も実施している。 いただいたご意見を参考に、働き手確保に向け今後も新たな取組の検討を進めていきたい。 |
| (委 員) 取組内容No.23「圏域公共交通の維持・活性化に向けた取組」における、上田草津線運行事業について、観光客だけではなく、地元住民も利用しやすくなるような時間帯での運行も将来的に行えるよう検討をしていただきたい。 |

(事務局) 今年度、上田草津線は季節便も含めると往復で6便運行していたが、昨今の運転手不足の影響により、現在は往復1便となっている。令和6年4月には、5年間適用が猶予されていた自動車運転業に対する時間外勤務の上限規制が適用されることから、更なる人手不足が懸念されている。このような厳しい状況の中、バス路線を充実させていくためには、運転手の確保が一番の課題であると感じている。また、運行時間については、事業者とも話しながら検討をしていきたい。

(委員) 取組内容No.18「広域観光の推進」について、この地域には、美ヶ原や白樺湖など全国的に一定の知名度のある資源が多く存在している。地元からその資源の良さを十分に発信できておらず、今後しっかりとしたアピールをしていけるよう、一緒に取り組んでいければと考えている。魅力あるこの地域を広く知っていただき、観光面から様々な地域振興に繋げていくことができるのではないかと。

(事務局) 広域観光の面では、例えば、新幹線沿線の各市町村のご協力により運営をしているJR上田駅構内の観光案内所では、それぞれの地域の特徴を観光客の皆様にご案内をして各地域への誘導を図っている。また、観光PR等で配布するパンフレットには、各地域の特徴が記載されたものを取り扱っている。観光は、交通や食などをはじめとする様々な分野に関わっており、裾野の広い産業である。この地域は、素晴らしい自然にも恵まれているため、今後もそれらをPRしながら広域観光の取組を進めていきたい。

(委員) 先日、能登半島において大規模な地震が発生したが、災害対応について、上田地域定住自立圏や広域単位でどのような連携をしているのかお聞きしたい。

(事務局) 現在、能登半島地震に伴い、長野県を中心にそれぞれの市町村において、廃棄物処理、給水関係、家屋倒壊の調査、災害廃棄物の処理等の対応を順次実施している。長野県内10圏域の合同支援チームということで、この圏域では上田市がリーダーとなり、上小地域各市町村に、派遣要請をしている状況である。1チーム5名程度、1週間単位で割り振りを行い、概ね3月頃までは継続的な支援をする予定となっている。現在、長野県は羽咋市と輪島市へ直接的な支援をしており、給水については、別の地域へも出向いている。

上田地域定住自立圏では、圏域内での直接的な防災協定は結んでいないが、各市町村担当課・担当者間における情報共有や、それぞれの防災訓練の状況を観察しながら総合訓練に向けた調整、また各市町村の備蓄の把握などの取組を進めている。情報共有をすることにより、災害時に各市町村が迅速な対応を行えることを目指しており、引き続き市町村間で連携を図っていきたい。

(委員) 近年、圏域内での移住者数は増加傾向にあると思うが、例えば移住者に自治会へ加入してもらったりなど、地元地域が移住者とコミュニケーションを取り、良好な関係を築けるよう工夫していることがあれば教えていただきたい。この地域にメリットを感じて移住してきた方たちに対し、我々受け入れ側としても気持ちよく移住をしてきてもらい、また、コミュニケーションを取り合いながら地域を盛り立てていきたい。

(事務局) 圏域全体の人口減少対策として、首都圏等での合同移住相談会やセミナーを実施するなどの移住関係の取組を進めている。長野県は、ある情報誌における移住希望ランキングで18年連続1位になるなど、首都圏等からの移住者数は全国的にも上位の数値となっている。この圏域においても新幹線の利便性が高く、移住先として人気のある地域となっている。

上田市では、移住者に限らず転入される方に対し、市民課窓口等で自治会に加入いただくよう市としても呼びかけているが、強制ではないため、自治会加入の促進については継続的な課題となっている。

また、上田市では、移住されてきた方に、地域の方との交流を持ち、定住していただけるよう、年1回程度の交流会を開催している。各市町村においても、様々な取組がなされていると思うが、移住者をはじめ転入される方に、この地域に長く住んでいただき、また、より良い関係性を持っていただくことが重要であり、関係市町村とも知恵も絞り合い、連携して取り組んでいきたい。

(会 長) 概ね意見が出尽くしたと思われる。出された意見については、今後の取組や検討に活かしてもらおうことをお願いし、議事を閉じさせていただく。

7 その他 特になし

8 閉 会

(事務局) 本日は、貴重な意見をいただき感謝申し上げます。今後の取組に生かしていけるよう考えていきたい。来月開催される連絡協議会においても本日の内容を各市町村長に報告させていただきたい。

この圏域を構成する7市町村は同じ生活圏であり、力を合わせて補い合いながら魅力ある地域を形成していけるよう、上田市としても中心市として、引き続きしっかり取り組んでいきたい。本日、ご意見をいただいたとおり、状況の変化に合わせた改善や、利便性を高めるための工夫などについて、各事業の中で考えていく必要があり、各市町村とともに取組を進めていきたいと考えている。

共生ビジョンは毎年度の変更作業が必要であり、来年度も委員をお願いすることもあるかと思うので、よろしくお願いしたい。